

フェーズドアレイ検査法確立WG

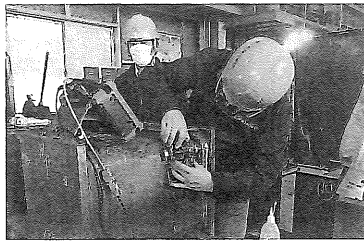
渡辺建鉄工業(埼玉)で 新しい治具の模擬検査

東京鉄構工業協同組合 (理事長 吉岡晋吾・吉岡工業社長) と埼玉県鉄構業協同組合、CIW検査業協会、エビデント、有識者らによる「フェーズドアレイ検査法確立WG (ワーキンググループ)」は10日、渡辺建鉄工業(埼玉県春日部市)で新しい治具の模擬検査を行った。同社で製作したテストピース14台を使用。エビデントと協力会社が製作した鉄骨溶接部向けの探触子治具について、使い勝手などを確認した。

「操作性や迅速性、安定性、正確性などがより向上する」等の意見が上がった。後日、データをまとめて検

証する。同WGは来年度も継続実施する。今後は協力ファブの工場において実際の検査で実証データを集め、課題があれば抽出し、その解決法を検討する。最終的にはファブの社内検査にフェーズドアレイ超

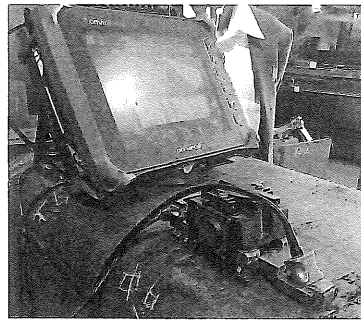
音波探傷器を適用できる体制を作り、検査にかかる人的負担やコストの軽減を目指す。WGの有識者は「現行UTと同等の検出能力がある」と実証されれば、現行基準をフェーズドアレイに適用できるのではないかとしている。



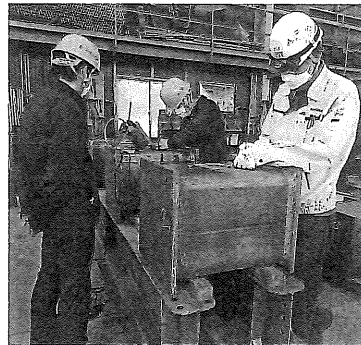
治具によりR部にも探触子がフィットしやすい

治具は樹脂とマグネットなどで構成されており、R部などの形状に合うよう可

も使用可能」



フェーズドアレイ超音波探傷器と探触子、治具



模擬検査のもよう